

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2023年8・9・10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第631号

キリスト新聞社より『コロナ後の教会の可能性 危機下で問い直す教会・礼拝・宣教』というブックレットが刊行されました。これは日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター主催の共同研究の成果です。パンデミックの中で、教会は何を経験し、どのような対応をし、今何を考えているのか。何を失ったのか。何を得たのか。これから先、教会にはどのような可能性があるのか。共同研究はこの課題に取り組みました。私は戒能信生さんに声をかけられて座長という役割を頂いたのですが、研究員招集にあたっては、中堅・若手の教職者・聖職者を主とする、教派的広がりを持つ、ということを意識しました。その結果、三〇〜四〇代が四名、五〇歳以上が三名、教派でいうと日本基督教団から三名、カトリック、カンパウンド、聖公会、バプテスト同盟から各一名という構成となりました。これに加え、実践神学において指導的立場にある二名の学者をアドバイザーに迎えた他、アンケート調査のためにキリスト新聞社の協力を得ることがで

きました。二〇二一年春から二二年夏にかけて計七回の研究会を、すべてオンラインで行いました。教派も居住地も異なり、互いに面識のない者が多いという顔ぶれでの共同作業を始めたのは、日本クリスチャン・アカデミーの皆さまがそのための「場」を用意してくださったからに他なりません。厚く御礼申し上げます。

げます。今回ブックレットによつて日本の諸教会に研究成果を伝えることで、①後世にコロナ禍の教会の記録を残す、②信徒の方々新しい可能性を提示して活力を喚起する、という二つの期待に少しでも応えることができれば、と願っています。研究発表と討議を振り返ると、大きく言つて三つのテー

『コロナ後の教会の可能性』 共同研究を振り返って



カンパウンド長老教会田園
教会牧師・日本聖書神学校教授

荒瀬 牧彦

マに集約されます。一つはコロナ禍で多くの教会が導入した礼拝オンライン配信またはオンライン礼拝が、どのような礼拝者の意識や共同体の質を変えたか、変えていくか。それを教会がどう受け止めるか、どう充実していくかとい

う実践的な関心。二つめは、そのような変化を神学がどう受け止め、位置付けられるかという礼拝学的また宣教的な議論。そして三つめは、社会の中で教会の使命という視点から、感染症による危機の中で真に深刻な危機にある人々の苦境を見極め、そこでどう仕えていけるか、非接触の壁を打破したイエスの振る舞いから教会は何を学ぶかと

いうチャレンジ。その内容については、ぜひブックレットをお読みください。
五月五日には東京の東中野教会で、そして同月二六日には関西学院大阪梅田キャンパスで、出版記念シンポジウムを行いました。東京での会には、金沢から片岡義博神父が駆けつけてくれました。多忙な中、遠路を来てくれた彼の「やはり一度は会いたかったから」という言葉に感動しました。パソコン画面越しにかなり親しくなつたと感じていましたが、生の対面に勝るものはありません。そのかけがえのなさを噛みしめつつ、同時に、「教会堂に人を導き入れることを伝道と考えてきた」思考の枠を破ることへの挑戦を私たちは受けています。利用可能なコミュニケーションのツールを用いて福音を伝え、祈りを共にし、リモートでもつながる道を本気で追及すること。そしてまた、真に困窮している現場へと出かけてイエスの愛を人間の接触の中で伝えること。コロナ禍で得た経験から真に学ぼうとするなら、教会にはまだまだ多くの可能性があるのです。

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

2022 年度事業報告 (総括)

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

①フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。

②アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

①当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。

②当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

①関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト

等によって継続的に情報を発信した。

②機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事业、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

貸借対照表

2023 年 3 月 31 日現在

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位: 円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産	43,582,763	19,940,486	23,642,277
2. 固定資産			
(1) 基本財産	12,000,000	12,000,000	0
(2) 特定資産	9,725,726	35,233,627	△ 25,507,901
(3) その他固定資産	275,748,001	279,973,908	△ 4,225,907
固定資産合計	297,473,727	327,207,535	△ 29,733,808
資産合計	341,056,490	347,148,021	△ 6,091,531
II 負債の部			
1. 流動負債	8,006,095	5,446,635	2,559,460
2. 固定負債	7,835,444	7,835,444	0
負債合計	15,841,539	13,282,079	2,559,460
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	2,001,135	2,001,135	0
2. 一般正味財産	323,213,816	331,864,807	△ 8,650,991
正味財産合計	325,214,951	333,865,942	△ 8,650,991
負債及び正味財産合計	341,056,490	347,148,021	△ 6,091,531

関西セミナーハウス活動センター

●2022年度 修学院フォーラム「福祉」第4回
「東九条子ども食堂の試みから」

講師 前在日大韓基督教
会京都南部教会牧師 許 伯基さん
2023年3月18日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



許伯基牧師は、かつての「オモニ学校」のように、教会が地域社会の中で何かの役割を担いたいとの思いの中から、こども食堂を始められた。「毎週」にこだわった理由は、こちら側の都合ではなく、「木曜日の夕方、あそこに行けば、まあまあのご飯が食べられる」というあり方が必要だと思っただからだ。仕事に追われる親たちの「助かる」場所として。問題を抱える子たちの居場所として。「大人食堂」として。気軽に社会貢献やボランティアを体験できる場所として。こども食堂は大切な働きを担うことができた。

NPO法人全国こども食堂支援センター「むすびえ」によると、「こども食堂の数は増加の一途をたどっており、現在その数は全国で約7,000箇所にものぼっている」(2022年12月現在)とのことだ。民間発自的・自発的な取り組みであるこども食堂が、どんどんどんどん増えていくことは、それは幸いなことなのか。公がしなければならぬことを、民間に任せているということはないのか。許伯基牧師は、大前提として「こども食堂など必要なくなる世の中を目指す」と言われた。

「この世は善意によってできているのか」という筆者の問いに対して、許伯基牧師は「こども食堂を通して、本当に多くの人の善意に出会うことができた」と、すてきな笑顔を返してくださいました。

●2023年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
「研究の主体でもない、対象でもない『女性』
〜日韓キリスト教関係史から探る〜」

講師 名古屋学院大学商学部准教授 神山美奈子さん
2023年4月22日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



神山講師は最初に、なぜ、自分が日韓キリスト教史研究に関心をもつようになったのかを、自己紹介を含めた自己史で説明した。高校の授業で衝撃を受けた「慰安婦」の証言、大学神学部で学んだ「民衆神学」に感銘を受けたこと、韓国へ留学しフェミニスト神学に感動したこと、そして韓国人の夫との出会い結婚後、韓国に移住した経験などを語った。続いて、日・韓のプロテスタント宣教の主な対象が、朝鮮では「民衆」と「歴史に介入する神」が鍵概念であり、日本では「知識人」と「文

化」であることを指摘した。この相違に関して、プロテスタント宣教初期における主体と対象に関して、キリスト教の受容のあり方、「民衆」、「武士」、「農村」、「都市」などの対象の違いなどについて解説した。

発題の後半では、日本のフェミニスト神学が女性だけでなくジェンダー、マイノリティ全体に焦点を当てる傾向があるのに対して、韓国の女性神学はあくまでも「女性」を対象とし、「フェミニズム」と欧文を使用することに躊躇があることを指摘した。また、韓国では日本以上に「女性神学」に関する書物が出版されているとした。さらに、朝鮮の宗教全体の基層を形成している伝統的なシャーマニズムとキリスト教の関係について解説した。韓国のキリスト教がシャーマニズムを取り入れ



急成長したとする議論が紹介された。

最後に今後の日・韓の宣教課題について、両国の神学者の著作を紹介し、宣教及び研究の対象が男性であることを指摘し、今後の課題は性別という概念をくずすことではないかと問いかけた。第2部では講演内容に基づき、多岐にわたる活発な議論が展開され、豊かな学びの時となった。

関東プログラム
記事は、次号に
掲載します。





ベルナデッテ講師は、最初に一人一人のLGBTQ+のキリスト者にそれぞれの物語があることを紹介した。教会で受け入れられ「希望」を見だしたクイア女性、牧師に「罪人」だと告げられたゲイのキリスト者、教会の役員会から「神の創造の秩序に逆らっている」と按手を拒否されたトランスジェンダーの男性。LGBTQ+に関しては、様々な神学があり、異なるいくつかの聖書解釈がある。聖書のテキストがテキスト自体を解釈することはなく、人間が異



通訳 渡邊さゆりさん

なる方法で解釈していることが指摘された。例えば、神は人間を「男と女」だけに創造されたのか(創世記1:27)と、講師は問いかける。神はただ「光」と「闇」、「昼」と「夜」だけを創造したのではない。神は「夜明け」と「夕暮れ」をも創造している。それらが造物の一部であるようにジェンダーのアイデンティティーを、男と女の間には厳格な境界を設けることは難しいと説明した。続いて講師は、古代ユダヤ教のラビたちの4つのジェン

●2023年度 修学院フォーラム「いのち」第2回
「聖書に向き合う」
LGBTQ+(プラス)のキリスト者たちと」
講師 ブランダイス 大学名誉教授
ベルナデッテ・J・フルーテンさん
通訳 渡邊さゆりさん
2023年6月3日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



講師の高作正博氏から、われわれが今出会っている国防に関する日本の新しい状況が説明された。
① 昨年の12月6日に国家安全会議で出された安保3文書。
・ 国家安全保障戦略

●2023年度 修学院フォーラム「社会」第1回
「憲法9条は死んでしまうのか?」
講師 関西大学法学部教授 高作 正博さん
2023年6月17日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

ダー認識、古代地中海地域における婚姻に関する初期キリスト教とユダヤ教文書による説明、パウロによるローマ信徒への手紙に基づく、女性間の性的接触に関する言及などを解説した。ローマ世界におけるユダヤ教とキリスト教の女性史の研究成果や古代地中海における女性同性愛者、初

期キリスト教における奴隷制度、性的暴力についても解説された。
第2部では講演内容に基づき、多岐にわたる質疑応答、活発な議論が展開された。LGBTQ+(プラス)のキリスト者たちと聖書に向き合う」よい機会となった。

・ 国防力整備計画
② 資金提供を通じた同志国との協力、無償による新たな軍事支援の導入。
③ 今年1月、国会を飛び越えての岸田首相とバイデン米大統領との公約。
いずれも国会抜きでの閣議決定が進められ、一気に戦争への機運を高める安全保障政策が展開されている。
元法制局長官 阪田雅裕氏の論文や発言「憲法9条は死んだ」では、集団的自衛権の



名でこれまでの「専守防衛」の枠を外し、制限の無い国防姿勢に入っているとされる。その「威勢のよさ」は国家を滅ぼしかねず、不安は高まるばかりである。二度と戦争はしないと誓った原点到ち返り、改めて憲法9条の意義を確認する機会となった。
参加者には地元の「九条の会」のメンバーや神学生、主婦、遠方からのリモート参加などがあり、活発な意見が交わされた。今こそ、9条の意義が大きくなっていることを訴えて行く必要を確認し合った。

●2023年度「開発教育セミナー」第1回

「開発教育入門セミナー」

～SDGsを自分ごととして～」

講師 関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会

岡本領子さん、佐藤友紀さん、織田雪江さん、丸山まり子さん

2023年6月18日(日) 会場 京都市国際交流会館

初夏の恒例「開発教育入門セミナー」が6月18日(日)、26名の参加者を迎えて京都市国際交流会館で開催された。コロナウイルスの扱いが5類感染症に変更された今年は、昨年の1.5倍の参加者を得て、徐々に活気ある参加型の学びが戻ってきたことを感じた。

午前中は「貿易ゲーム」を体験した。開発教育で長く、広く活用されているこのシミュレーションゲームは、モノ、カネ、ヒトが移動するグローバルゼーションの中で、自由貿易により経済格差が拡大することを体感する教材である。この入門セミナーでは、初めての人には貿易の中に潜む不平等や理不尽さ、人権問題に気づいてもらうこと、すでに実践している人には今日の状況を踏まえてさらに深めることをねらいにしてい



た。「構造的暴力については、胸に突き刺さった。知らないでいる怖さも感じた。」「課題のアップデートの必要性を認識した研修で、忌憚ない意見交換ができた。」といったふりかえりが寄せられた。午後は昨年末に当会が出版した『身近なことから世界とわたしを考える授業Ⅲ』より、「あなたに贈りたくなるチョコレート」の教材を実施した。チョコレートの歴史、世界へ

の広まり、企業によるフェアな関係への取り組みなどからフェアトレードを多面的に捉え、持続可能な開発のあり方を考えるとともに、新刊本を広く手に取ってもらえる機会となった。



賛助会費・寄付金報告 (1)

2023年4月1日～6月30日

(順不同・敬称略)

◆財団本部

寄付

武藤 高司
長谷川 義紘
柳井 一朗

◆関東活動センター

賛助会費

大鹿 康廣
只野 哲
河原田 美哉子
立原 敬一
竹中 百合子
星野 宗吾
西間木 公孝

寄付

中村 信博
許 昌範
池内 友子
高柳 允子
竹政 志郎

神学生プログラム寄付

川北 かおり
日本キリスト教団早稲田教会
只野 哲
日本基督教団玉島教会
西間木 公孝

◆関西セミナーハウス

寄付

神崎 清一
和田 舞

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

小笠原 純
水戸 潔
佐々木 紘児
鳥井 清司・操
上條 美代子
糸原 由美子
中村 信博
大島 偕美
橘 俊子
梅山 猛
関西青年アシラム
平林 喜博
大島 順子
山本 俊正
川北 かおり
竹中 百合子
吉中 尚子
藤田 恭子
林 律
斉藤 洋子
多木 秀雄
木村 護郎クリストフ
堤 龍春
長塩 滋子
近藤 恵
陶村 世佳子
松岡 蓉子
Christian M.Hermansen
岩坂 二規・泰子
大谷 光真
匿名

次頁に続く

プログラム案内

◆関東活動センター

(いづれも共催：早稲田奉仕園)

■2023年度 聖書を読む講座Ⅰ

「マルコ福音書をジックリと読む」第6期

講師：山口 里子さん (聖書学者)
日時：⑤9月12日～ 第2火曜 18:30～20:00

参加費：全10回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoom によるオンライン講座

■2023年度 宗教対話Ⅰ

〈アンコール開講〉連続講座
「日本キリスト教史を読む」Ⅲ昭和篇
講師：戒能信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

日時：④8月10日～ 第2木曜 14:00～16:00

参加費：全7回6,000円(学生3,000円)
方法：Zoom によるオンライン講座

■2023年度 宗教対話Ⅱ

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅱ

東 西 南 北

【役員改選】

任期満了に伴い、2023年度当財団定時評議員会(6月21日)で、次の通り役員(理事6名、監事2名)が選任され、それぞれ就任した。(任期2年)

- 代表理事 中村 信博
理事 榎本 栄次 戒能 信生
神崎 清一 神田 健次
神保 正男
監事 黒岩 裕二 柳井 一朗

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本キリストチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博
本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256
関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス/関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256
関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

講師：山根道公さん・山根知子さん(ノートルダム清心女子大学教授)

日時：④9月25日⑤10月23日⑥11月27日各月曜14:30～16:00
参加費：全6回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoom によるオンライン講座

■2023年度 宗教対話Ⅲ

読書会「キリスト教と文学」(対面)
講師：柴崎總さん(文芸評論家)

日時：④9月19日⑤10月17日⑥11月21日火曜14:00～15:30
参加費：各回1,000円(学生4,000円)
会場：関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

◆関西セミナーハウス活動センター

■2023年度修学院フォーラム「社会」第3回「聖書をエコロジーの視点で読むエコロジカル聖書解釈への招き」

講師：大宮 有博さん(関西学院大学法学部教授)

日時：10月21日(土)13:30～15:50
参加費：1,500円 学生 500円
方法：会場 関西セミナーハウスとZoom 併用

■2023年度修学院フォーラム「いのち」

第3回「旧約聖書と現代：人間と自然、人間と社会、人間と文明」

講師：月本 昭男さん(古代オリエント博物館館長)
日時：11月3日(金)～4日(土)
会場：関西セミナーハウス

■2023年度開発教育セミナー

第3回「私の"伝えたい"を探すワークショップ」

講師：くるみざわ しんさん(劇作家・精神科医)
日時：9月9日(土)16:00～10日(日)12:00

第4回フィールドワークあり(宇治市ウトロ地区)
「ウトロで考える人権・平和～これまでの活動に学び、多文化共生社会を創造しよう」

◇新刊案内(関東活動センター)

コロナ後の教会の可能性
危機下で問い直す教会・礼拝・宣教



日本キリストチャン・アカデミー共同研究
荒瀬牧彦 編
(キリスト新聞社刊)
2023年3月23日発行
1500円(税別)

講師：金 秀煥さん(ウトロ平和祈念館副館長)

日時：10月7日(土)14:00～8日(日)12:00

集合：ウトロ平和祈念館
第5回「主体的に行動する市民を育て～「南」の島の出会いの現場から～」
講師：藤野 達也さん(Evangelical Lutheran Church PNG, Lutheran Development Service)

日時：11月4日(土)16:00～5日(日)12:00
参加費：11,000円(宿泊税別)
会場：関西セミナーハウス

■新プログラム〈予告〉

「京都の秋を愛でる～ウクライナの平和を願って～」
紅葉のKSHで共に過ごす3日間
日時：11月23日(木祝)12:00～25日(土)12:00

会場：関西セミナーハウス
主な予定：美術作品展、講演、美術鑑賞、アートワークショップ、ピアノとトーク、トークと詩の朗読、紅葉狩り他

講師/ゲスト：渡辺総一さん、神田健次さん、榎本恵さん、橋本ルツ子さん、沢知恵さん
参加費：全日程 35,000円(2泊食事代、市宿泊税込)

賛助会費・寄付金報告(2)

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

- 八杉 恵
松田 光代
宮本 桂子
喜多村 やよい
間瀬 啓允
西川 淑子
島田 誠一
山岡 義生
宇野 稔
佐藤 友紀
徳田 信
松本 嘉一
木下 壽子
今川 泰彦・喜子

岡本 領子
株式会社こころ

寄付

- 京滋キリスト者平和の会
小野田 照代
神山 美奈子
糸原 由美子
中村 信博
梅山 猛
平林 喜博
山本 俊正
小久保 正
竹中 百合子
荒井 加代子
斉藤 洋子
姫野 真知夫

- 山添 みどり
延原 正海
匿名
喜多村 やよい
坪野 えり子
西川 淑子
山岡 義生
多田出 佳代子
松本 嘉一
田中 義信
君村 千代子
柳井 一朗
長谷川 義敏
武山 泰子

以上感謝をもってご報告申し上げます。